

戦略 1 「ともにつくる協働のまちづくり」 ←市民会議の「高齢化・市民活動部会」、「まちづくり部会」からの主な提言内容、6部会共通の提言内容より			
庁内素案	行政審議会を踏まえた骨子の経過		《参考》
	骨子	骨子（たたき台）	市民会議での具体的な取組提言
《戦略プロジェクト》 1 A 「多様な主体が協働するまちづくり」	○ 市民、自治会、市民活動団体、企業、市内 4 大学、行政など多様な主体が協働するまちづくり 【⇒ 1 A】	○ 多様な主体が協働で取り組むためのシステムづくり 【⇒ 協働の組織は 1 つだけでなく、多種多様な組織が、いろいろと連携・協働してまちづくりを実践すべき。多くの市民が参加しやすい協働の受け皿をたくさんつくり、その上でネットワーク化すべき。まず、協働の進め方を推奨すべき】	
市民、自治会、市民活動団体、企業、大学、行政など多様な主体が協働するためのネットワークづくり、組織づくりを支援し、協働によるまちづくり・人づくりに取り組むことで、協働の機運をさらに高め、江別市における協働推進の環境を整備します。 《推進プログラム》 ① 協働によるまちづくり 協働の意識の向上を図るとともに、まちづくりのあらゆる分野において、多様な主体の協働による地域課題の解決に取り組みます。 ② 協働を担う人づくり 協働によるまちづくりを持続させるために、多様な主体が連携し、次世代を担う人材を育成します。 ③ 協働に取り組むための組織づくり 多様な主体の協働による取組をさらに推進するためのネットワークの強化を図るとともに、協働に取り組む組織づくりを支援します。	・ 協働のまちづくり 【⇒ 1 A ①】	・ 恒久的な新しい協働の組織の設立 【⇒ ネットワークや新しい組織づくりは、一番下へ】	市民、自治会、市民活動団体、企業、市内 4 大学、江別市など多様な主体が参加する組織
	・ 協働の仕組みによる人づくり 【⇒ 1 A ②】	・ 協働のシステムによるまちづくり 【⇒ 「システム」を外してシンプルにして、一番上へ】	政策課題を市民協働で実践し、協働の市民意識を醸成 政策課題例：駅を中心としたまちづくり、子育て、環境対策、公共施設管理、観光、防災・防犯等
	・ 新しい協働に取り組む組織づくり 【⇒ 1 A ③】	・ 協働のシステムによる人づくり 【⇒ 協働によるまちづくりの中に「人づくり」が含まれるので 2 番目に移動】	新しい組織による協働の担い手育成
《戦略プロジェクト》 1 B 「大学が活躍するまちづくり」	○ 市内 4 大学が活躍するまちづくり 【⇒ 1 B】	○ 4 大学が活躍するまちづくり 【⇒ 文言の統一で、「大学」を「市内 4 大学」へ】	
江別市の特性として市内に 4 つの大学があり、それらの大学及び学生が、それぞれの得意分野を活かして、地域課題の解決やまちの活性化のために、様々な分野で活躍するまちづくりを進めます。 《推進プログラム》 ① 大学の得意分野を活かした地域の活性化の支援 大学の研究機能を活用するとともに、大学と地域が互いを知り、交流するための活動を支援することで、地域の課題解決をめざします。 ② 知的資源である大学が持つ力を活かした教育・人材育成の支援 大学の教育機能を活用し、市民に学びや交流の場を提供するとともに、協働のまちづくりを担う人材を育成します。 ③ 学生の力を活かしたまちづくり 学生の力を活用し、地域が持っている力との相互作用により、地域の活性化をめざします。	・ 大学の得意分野を活かした地域の活性化 【⇒ 1 B ①】	・ 大学の得意分野を活かした産業の活性化 【⇒ 「産業」に限らず、「地域」の活性化へ変更】	産学官連携による新製品や新技術の開発等
	・ 大学のポテンシャルを活かした教育・人材育成の支援 【⇒ 1 B ②】	・ 大学のポテンシャルを活かした教育・人材育成	市民や高校生の大学授業への参加、野幌森林公園や石狩川などでの環境学習、観光ガイドの育成
	・ 大学及び地域の行事への相互参加の促進 【⇒ 1 B ①に統合】 ※ 大学の得意分野を活かした地域の活性化の中で大学と地域の相互交流に取り組む	・ 学生の力を活かしたまちづくり 【⇒ 大学に関する内容の次に学生の内容を。一番下へ移動】	まちづくり事業、観光プロジェクト、商店街での音楽演奏、空き家対策等
	・ 学生の力を活かしたまちづくり 【⇒ 1 B ③】	・ 大学の行事への市民参加 【⇒ 大学と地域の相互参加の内容に変更】	市内 4 大学の文化祭などへの市民参加
（柱立ての組み替え）	○ 多世代間の協働によるまちづくり 【⇒ 戦略 3 A に統合】 ※ 主に 3 A ③の中で、多世代間の交流による具体的な事業を展開	○ 元気な高齢者が活躍するまちづくり 【⇒ 「高齢者」に限定せず、「多世代間」へ変更】	
	・ 知恵と経験を活かせるまちづくり 【⇒ 戦略 3 A に統合】	・ 高齢者によるコミュニティビジネスの創出 【⇒ 産業的な具体的内容であるため外す】	地域資源や空き店舗を活用したビジネスの創出
	・ 子育て世代と高齢者との協働の推進 《新規追加》 【⇒ 戦略 3 A に統合】	・ 資格や経験を活かして働ける場づくり 【⇒ 「働ける場」に限定せず、「まちづくり」として整理】	専門知識を有する高齢者の学校講師

戦略2「えべつの将来を創る産業活性化」

←市民会議の「地域産業部会」からの主な提言内容、6部会共通の提言内容より

庁内素案	行政審議会を踏まえた骨子の経過		《参考》
	骨子	骨子（たたき台）	市民会議での具体的な取組提言
《戦略プロジェクト》 2A「産業間連携等による産業の活性化」	○ 産業間連携による産業の活性化と人材の育成 【⇒2A、2C③】 ※「人材の育成」の要素は2Cとして一つの大きな柱とした	○ 北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区の推進 【⇒1次産業から加工業、サービス業、バイオ関係などへ幅広く展開していく方法の1つとして整理】	
それぞれの産業や企業単独ではなく、江別市の特性である農商工連携・産学官連携を強化し、多様な主体が連携して地域に根差した産業集積をはかるとともに、大学・研究機関に恵まれた江別市ならではの知的資源や学生の力を活かした産業の活性化をめざします。 《推進プログラム》 ① 市内企業等が主体となったネットワーク構築の支援 江別市の特性である農商工連携・産学官のネットワークや中小企業をはじめとする企業間の連携を強化し、江別全体や江別市を取り巻く地域に効果をもたらす事業を重点的に支援します。 ② マーケティングの視点に基づいた産業振興 市内だけではなく道内外・海外への広域的な展開や、顧客のニーズを考え、製品・サービスの企画から流通に至るまでを総合的に模索するマーケティングの視点に基づいた産業振興を支援します。 ③ 地域に根差した商店街の魅力づくりへの支援 地域の特性を活かした商店街の魅力づくりや、学生が地域住民と交流し、商店街の活性化をめざす活動を支援します。 ④ 大学・研究機関との共同研究の推進 《新規追加》 江別市の知的資源である大学・研究機関と企業等が共同で産業振興をめざすための研究を支援し、高付加価値化・新製品開発・ブランド化等を推進します。	・ 市内企業等が主体となったネットワークの構築 《新規追加》 【⇒2A①】	・ 1次産業を基盤にした付加価値の高い産業の集積 【⇒農業を起点とした展開の柱立ての中へ。企業誘致とともに雇用の場の確保も必要】	食品加工業やバイオ関連企業の誘致、新たな工業団地建設の検討
	・ マーケティングの視点に基づいた産業振興 《新規追加》 【⇒2A②】	・ 付加価値の高い新製品の開発、販路拡大等の支援 【⇒農業を起点とした展開の柱立ての中へ】	江別産1次産品の市内での加工等を支援
	・ 産業の担い手の確保、企業の人材育成の支援 【⇒2C③】		
	・ 中小企業の活性化 【⇒2A】 ※ 2Aの各項目で中小企業の活性化を図る。 主に①の中で中小企業への支援を記載		
	・ 地域に根差した商店街の魅力づくりへの支援 【⇒2A③】		
《戦略プロジェクト》 2B「農業と2次産業・3次産業との連携による広域的な展開」	○ 農業を起点とした2次産業・3次産業の広域的な展開 【⇒2B】	○ 農業を核とした産業の育成 【⇒1次産業から加工業、サービス業、バイオ関係などへ幅広く展開。周辺自治体を含めた広域的視点で江別市の経済戦略が必要】	
江別市の基幹産業の一つである農業と2次産業・3次産業との連携により、江別産の農畜産物やこれらを原料とした加工食品等の「食」の高付加価値化や、市内・道内はもとより道外・海外といった広域的な市場ニーズに合わせた販路拡大への取組などを支援します。 《推進プログラム》 ① 「食」の付加価値を高める産業の集積 北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区への指定などを契機として、江別産の農畜産物の活用につながる食関連産業の企業誘致を推進します。 ② 付加価値の高い新製品開発、販路拡大等の支援 地元農畜産物を利用した新製品開発などの取組を支援するとともに、市内生産者・事業者による国内外への販路拡大に向けた取組を支援します。	・ 北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区の推進 【⇒2Bを実現するための具体的な事業として文章の中で整理】	・ 1次産品の価値を高める江別ブランドの創出 【⇒付加価値の高い新製品とブランド化を併記】	江別産1次産品のブランド化、道外・海外への販売の支援
	・ 1次産品の付加価値を高める産業の集積と雇用の場の確保 【⇒2B①、雇用の場の確保は2C①】	・ 地産地消の推進 【⇒観光とセットで活性化を検討】	地元農産物による食品や料理の開発、農産物直売所・農家レストランの促進、学校給食への利用拡大、食のイベント開催
	・ 付加価値の高い新製品・江別ブランドの開発、販路拡大等の支援 【⇒2B②】	・ 農業の担い手の育成 【⇒産業の担い手の確保、企業の人材育成の支援へ】	新規就農者への支援、大学のインターンシップによる労働力確保

戦略2「えべつの将来を創る産業活性化」（つづき）

庁内素案	行政審議会を踏まえた骨子の経過		《参考》
	骨子	骨子（たたき台）	市民会議での具体的な取組提言
（柱立ての組み替え）	○ 環境に優しい再生可能エネルギーを活用した産業の振興 【⇒2C①】 ※ 企業誘致のための条件整備の一つとして整理（環境保全に対する意識や関心の高い企業への優遇措置など）	○ 環境に優しい再生可能エネルギーを活用した産業の振興	
	・ 環境配慮型企業の誘致 【⇒2C①】	・ 環境配慮型企業の誘致	環境保全型企業の誘致
	・ 環境負荷の少ない循環型産業の推進 【⇒2C①】	・ 環境負荷の少ない循環型農業の推進 【⇒環境負荷を軽減しなければならないのは農業に限らない】	冷熱エネルギーを利用した農産物貯蔵庫の整備、農産物や食品残さを利用したバイオマス施設の整備
《戦略プロジェクト》 2C「雇用の創出と人材育成の支援」 《新規追加》	（柱立ての組み替え）	○ 中小企業の活性化 【⇒産業間連携による産業の活性化の中へ】	
「働きたいまち・えべつ」・「企業が立地したいまち・えべつ」をめざして、企業にとって魅力的な立地環境を整備するなど、企業立地の促進による雇用創出と、企業が必要とする労働力を確保するための就労支援・人材育成に一体的に取り組めます。 《推進プログラム》 ① 企業誘致のための条件整備 環境保全に対する意識や関心の高い企業への優遇措置や子育て環境の充実などにより、企業が立地したくなる環境を整備することで、雇用の創出を図ります。 ② 潜在労働力の掘り起こし（就労支援） 働きたい人が働けるような就労支援に取り組むことで、就労人口を増加させ、企業誘致につなげます。 ③ 産業の担い手の確保、企業の人材育成の支援 企業と人材のマッチングや産業の振興に貢献する人材育成の支援等により、次代を担う優秀な人材の確保・育成を支援します。		・ 市内企業間の交流促進 【⇒産業間連携による産業の活性化の中へ】	市内企業等を支援する体制の整備、企業支援制度・産業支援制度利用の円滑化、経済団体間・企業間の交流活発化の支援
		・ 企業と人材のマッチング支援 【⇒産業間連携による産業の活性化の中へ】	ハローワーク・行政・経済団体・大学等の雇用に関わる市内の機関の連携、求人・求職の情報交換などの雇用創出を支援する事業への支援
		・ 企業の人材育成の支援 【⇒産業間連携による産業の活性化の中へ】	就業訓練やインターンシップによる人材育成の支援
		・ 商店街の魅力づくりへの支援 【⇒産業間連携による産業の活性化の中へ】	学生の力を活かしたまちづくり事業への支援
《戦略プロジェクト》 2D「地域資源の活用による観光の振興」	○ 地域資源の活用による観光の活性化 【⇒2D】	○ 地域資源の活用による観光の活性化	
石狩川や野幌森林公園などの豊かな自然、地場産品、公共施設や歴史的建造物など、既存の地域資源を再評価し、観光資源として有効活用するとともに、大都市である札幌市に隣接しているという立地性を最大限に活かした、江別市ならではの観光を推進します。 《推進プログラム》 ① 地域資源の観光への有効活用 豊かな自然や既存の施設の利活用、食と農の観光化や、市民による観光資源の発掘・創出・魅力向上を支援することにより、地域資源を活かした観光を推進します。 ② 観光資源のパッケージ化 顧客の目的やニーズに合った様々な地域資源を組み合わせた、観光資源のパッケージ化や観光ルート化による相乗効果で、観光の魅力を高めるとともに地域振興も図ります。	・ 食や自然、施設など地域資源の観光への有効活用 【⇒2D①】 ・ 観光資源のパッケージ化 【⇒2D②】	・ 地域資源の観光への有効活用 【⇒観光資源の内容の柱を整理し、地域資源の内容を具体的に記述】	セラミックアートセンター、埋蔵文化財センター、れんが建築物、四季のみち、道立野幌総合運動公園、野幌森林公園、石狩川などを有効活用するため、自然ガイド、歴史ガイド、れんが建築物ガイドなどを育成
		・ 食と農業の観光資源化	江別小麦を使ったスイーツやラーメン等の商品開発、食品工場見学、農家レストラン、農産物直売所など食観光の支援
		・ 観光資源の発掘	市民による新たな観光資源の発掘、魅力向上、創出等の支援
		・ 観光資源のネットワーク化 【⇒ツアー商品の売込みの意見で「パッケージ化」へ】	観光資源（施設、自然、食）のネットワーク化による江別観光のツアー商品化

戦略3 「次世代に向けた住みよいいべつづくり」 ←市民会議の「暮らし・定住部会」、「まちづくり部会」からの主な提言内容、6部会共通の提言内容より			
庁 内 素 案	行政審議会を踏まえた骨子の経過		《参考》
	骨 子	骨子（たたき台）	市民会議での具体的な取組提言
《戦略プロジェクト》 3 A 「社会全体で子どもを産み育てる環境づくり」	○ 社会全体で子どもを産み育てる環境づくり【⇒3 A】	○ 子どもを産み育てる環境づくり 【⇒子育て経験者や高齢者など、いろいろな世代が関わった子育て環境を表現し「社会全体で」を追加】	
子どもを産み育てる環境を充実させるとともに、多世代が関わり合いながら、社会全体で子育てをサポートする環境をつくることで、「子育てしながら働きやすいまち」「子どもを産み育てやすいまち」をめざし、子育て世代の定住促進に取り組んでいきます。 《推進プログラム》 ① 子どもを安心して産み育てられる支援体制の整備 既存の子育て支援政策を効果的に連動させ、利用者のニーズに合わせた支援を重層的に実施することで、子育て世代をサポートします。 ② 子育て世代が定住したくなる住環境の整備と教育内容の充実 子育て世代の定住を促進するために、自然と調和した良好な住環境を整備するとともに、江別市の特性を活かして教育内容の充実を図ります。 ③ 多世代が交流する子どもの遊び場の充実 子どもの育ちを支援するために、いろいろな世代の子どもが集って、一年を通して安心して快適に遊ぶことができる場の充実を図るとともに、子どもだけでなく、子育て中の保護者が、そのような場を利用して、高齢者をはじめとする先輩保護者と交流を深めることができる環境の整備を進めます。	・子どもを安心して産み育てられる支援体制の整備 【⇒3 A ①】	・子育て世代の定住の促進	空き家情報の発信などによる住みかえの促進、子育て世代が土地を購入しやすい仕組づくり
	・子育て世代が定住したくなる住環境・教育環境の整備 【⇒3 A ②】	・利用者の実態に合わせた保育園、認定こども園、病児・病後児保育実施機関、学童保育等の運営 【⇒具体の事業内容は外す】	利用時間の延長、費用の助成等
	・いろいろな世代が交流する子どもの遊び場の充実 【⇒3 A ③】	・子育ての医療・福祉体制の充実 【⇒子育て支援体制の中へ含めて外す】	予防接種の充実、医療費助成の年齢拡大、障がい児、障がいの疑いのある乳幼児への支援体制の充実
	・一人ひとりの成長と生きがいを支える場づくり 【⇒3 A ①、3 A ③、知的資源である大学が持つ力を活かした教育・人材育成の支援→戦略1 B ②】	・子どもの遊び場の充実 【⇒子どもの遊び場の中で、いろいろな世代の交流を促進】	冬期間や雨天時に遊べる施設の整備（体育施設の乳幼児への開放等）
		・市の子育て推進体制の充実 【⇒子育て支援体制の中へ含めて外す】	乳幼児期を総合的に所管する部署の設置、子育て支援センターの充実（利用時間の延長、土日祝日の開館）
		○ 一人ひとりの成長を支える教育と文化 【⇒誰もが生きがいを見つけられる場として整理】	
		・魅力的な学校づくり 【⇒子育て世代が定住したくなる住環境・教育環境の整備の中へ統合】	学力向上、スポーツ、音楽などで特色ある学校づくり、小学校における江別の歴史・環境教育、英語教育の充実
		・4大学との連携による子どもから高齢者までの生涯学習の推進 【⇒戦略1 B（大学のポテンシャルを活かした教育・人材育成の支援）の中へ統合】	市内大学図書館等の教育施設を活用した小学生から大人までの連携型生涯学習、望む時に自由に学べる環境整備
		・文化・芸術やスポーツに親しめる環境づくり 【⇒戦略1 B（大学のポテンシャルを活かした教育・人材育成の支援）の中へ統合】	市民の健康維持・増進のためのスポーツ事業、いきがいつくりのための文化事業の充実、市民の自主的な文化活動・スポーツの支援
《戦略プロジェクト》 3 B 「駅を中心とした暮らしやすいまちづくり（えべつ版コンパクトなまちづくり）」	○ 駅を中心とした暮らしやすいまちづくり（えべつ版コンパクトなまちづくり） 【⇒3 B】	○ 暮らしやすい住まいづくり 【⇒駅中心への生活機能の集約化の内容を含めて統合】	
江別市のまちの特性に合わせた駅周辺の活性化を進め、魅力ある住みよいまちを実現するとともに、様々なライフスタイルに対応するため、駅周辺の利便性を向上させることで、誰もが暮らしやすいまちづくりに取り組んでいきます。 《推進プログラム》 ① 様々なライフスタイルに対応した駅周辺の利便性の向上 日常生活（買い物、行政手続き、子育てなど）、余暇、働く場面などで、様々なライフスタイルに対応できるよう、それぞれの駅周辺の特性を活かした利便性の向上を図ります。 ② 交通ネットワークの充実 駅を中心とした公共交通を充実させることで、駅周辺から遠い郊外に居住する市民にも利便性のあるまちづくりをめざします。 ③ 高齢者がいきいきと活動しやすい居住環境の充実 住み替えやバリアフリー化への支援などにより、高齢者が快適に生活できるよう支援します。	・高齢者がいきいきと活動しやすい居住環境の充実 【⇒3 B ③】	・高齢者の居住環境の充実	高齢者の駅周辺への住みかえの促進、住宅バリアフリーへの支援、買物支援体制の整備
	・交通ネットワークの充実 【⇒3 B ②】	・都市の利便性と豊かな自然との調和	街中にある自然環境を有する公園の充実・活用、市民による街中の植樹、農村部の豊かな環境の活用
	・様々なライフスタイルに対応した駅周辺の利便性の向上と自然の保全 【⇒3 B ①】 ※「自然の保全」の要素のみ3 A ②へ	○ 駅を中心とした賑わいのまちづくり（えべつ版コンパクトなまちづくり）	
		・駅周辺の賑わいの創出 【⇒駅周辺の利便性の向上の結果もたらされるため統合】	江別の顔づくり事業の推進、物産展や農作物の販売スペースの確保、市民によるイベントの実施、商業施設・企業等の誘致、江別駅周辺の利便性の維持
		・交通ネットワークの充実	各駅や利便性の高い施設を中心とした公共交通ネットワークの構築
	・地域住民が起点となる防災・防犯・交通安全対策の充実 【⇒まちづくり政策の「安全・安心」】 ※「○ 駅を中心とした暮らしやすいまちづくり」という柱とは目標が異なる。また、えべつ未来戦略は、市の優位性や特性を活かしてまちの魅力を高めるために重点的に取り組むもの。防災・防犯・交通安全は、どこの自治体においても市民の生命や安全を守るために力を入れて取り組むべきことから、戦略として短期集中的に取り組むものではなく、まちづくり政策の中で、中長期的な視野で恒常的に取り組むべきものと判断	○ 安心して暮らせるまちづくり 【⇒市民協働の視点を含めた記述へ】	
		・防災対策の強化	公共施設の耐震化、防災資材の備蓄、冬期間の災害に備えた避難所の整備、防災マップの充実、高齢者・障がい者等の災害時要援護者への対応の充実
		・防犯・交通安全対策の充実	住民と行政が一体となった公園や公共施設の防犯対策、市道の夜間防犯対策の充実、歩行者と自転車の分離通行の全市的な実施

戦略４ 「えべつの魅力発信シティプロモート」 ←市民会議の６部会共通の提言内容より			
庁 内 素 案	行政審議会を踏まえた骨子の経過		《参考》
	骨 子	骨子（たたき台）	市民会議での具体的な取組提言
《戦略プロジェクト》 ４Ａ「ニーズにあわせた効果的な情報発信」	○ 情報収集・発信のシステムづくり 【⇒４Ａ】 ※「○ ニーズにあわせた効果的な情報発信」の柱と合わせて、一つの柱として整理	○ 情報収集・発信のシステムづくり	
情報収集と発信の仕組みを再構築して江別市の情報戦略を確立し、対象と目的を明確化することで、ニーズに合わせた効果的な情報発信に取り組んでいきます。特に、まちの魅力を高めるために重点的に推進する取組を積極的にＰＲしていくことで、戦略の効果的な推進を図るとともに、江別市の認知度向上をめざします。 《推進プログラム》 ① 江別市に住んでもらうための生活情報の発信 生活、子育て支援・教育、安全・安心や環境への取組に関する情報、良好な住環境の情報などを市内外にＰＲします。 ② 江別市に来てもらうための観光・産業情報の発信 各種イベント情報や、江別市ならではの地域性を活かした観光・産業情報をＰＲします。また、市民や企業等による市民目線の観光・産業情報発信の取組を支援します。 ③ 市民や企業が主体となるまちづくり情報発信の支援 まちづくりへの積極的な市民参画を促す情報発信に取り組むとともに、企業が互いをＰＲし合える環境づくり、企業間連携による新商品開発、付加価値化に向けた取組を支援します。 ④ 江別市のイメージづくり 《新規追加》 多様なメディアを活用して、市内外に江別市の魅力や優位性を積極的にＰＲし、認知度を向上させます。	・ 情報収集・発信の充実 【⇒４Ａ】	・ 情報図書館の充実 【⇒具体的な内容は外す】	利用者の利便性を考慮した開館時間の見直し、市内４大学の図書館、公民館の分館、公共施設と情報共有・ネットワーク化
	・ 情報発信の一元化 【⇒４Ａ】	・ 情報発信の一元化	広報紙、パンフレット、ポスター、ホームページ、フェイスブック、ツイッター等の様々な情報媒体を充実し、効果的・効率的に活用
	○ 情報データベースの構築 【⇒情報収集・発信の充実のための具体的な事業案として整理】	○ 情報データベースの構築	
	・ 地域情報のデータベース 【⇒情報収集・発信の充実のための具体的な事業案として整理】	・ 地域情報のデータベース	市民、市外に向けた江別の地域情報などの整理
	・ 観光資源のネットワーク化 【⇒４Ａ②、観光のパッケージ化→戦略２Ｄ②】	・ 観光資源のネットワーク化	地域資源を観光資源としてパッケージ化
	○ ニーズにあわせた効果的な情報発信 【⇒４Ａ】 ※「○情報収集・発信のシステムづくり」の柱と合わせて、一つの柱として整理	○ ニーズにあわせた効果的な情報発信	
	・ 江別に住んでもらうための生活情報の発信 【⇒４Ａ①】	・ 江別に住んでもらうための生活情報の発信	子育て支援情報、交通利便性、地価の安さ、良好な住環境等の発信
	・ 江別に来てもらうための産業振興の情報の発信 【⇒４Ａ②、４Ａ③】	・ 江別に来てもらうための観光・イベント情報の発信	紙媒体、ラジオ、テレビ、ホームページ等でのイベントＰＲ、江別のブランドイメージづくり（れんがのまち江別、江別の安全性など）
	・ 市民へのまちづくり情報の発信 【⇒４Ａ③】	・ 市民へのまちづくり情報の発信	市民がまちづくりに参加できるよう、まちづくり活動や地域情報等の発信